

## 第1回二宮町まちづくり評価委員会 会議要旨

開催日時		平成31年2月8日（金）9時30分～12時15分
開催場所		二宮町役場2階 第1会議室
出席者	委員	出席5名 大工原主馬 委員、湯川恵子 委員、吉田美佳子 委員、片岡宇一郎 委員、間中 晟委員
	その他	傍聴 0名
	町職員	政策担当参事
	事務局	政策総務部企画政策課3名
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 会長及び副会長の選出</li> <li>4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 二宮町行政評価システムの概要等について</li> <li>(2) 政策評価に対する意見等について</li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>5. 閉会</li> </ol>
配布資料		<p>資料1 二宮町附属機関等が開催する会議の公開に関する要綱</p> <p>資料2 二宮町まちづくり評価委員会委員名簿</p> <p>資料3 二宮町まちづくり評価委員会設置要綱</p> <p>資料4 二宮町行政評価システムの概要</p> <p>資料5 「二宮町まちづくり評価委員会評価」実施要領</p> <p>資料6 第5次二宮町総合計画体系図</p> <p>資料7 政策評価シート（中期基本計画期間）</p> <p>参考資料1 施策評価シート（平成28年度・平成29年度）</p> <p>参考資料2 平成28年度・29年度内部評価結果一覧表</p> <p>参考資料3 第5次二宮町総合計画後期基本計画策定に向けた町民アンケート調査報告書（抜粋）</p> <p>参考資料4 前期基本計画の行政評価に係る意見書</p> <p>参考資料 『第5次二宮町総合計画基本構想』『中期基本計画』『実施計画』『第5次二宮町総合計画後期基本計画（案）』</p>

## ■会議概要

### 1. 開会

### 2. 自己紹介

### 3. 会長及び副会長の選出

会長を湯川恵子 委員、職務代理を片岡宇一郎委員に決定する。

### 4. 議 題 【質疑・意見など】（※◎は会長、○は委員、●は事務局の発言）

#### （1）二宮町行政評価システムの概要等について

- 今回の委員としてどのように評価すればよいのか。
- 庁内の評価は加味せず、委員会としての評価を判断いただきたい。
- 各施策の評価はばらつきがあるため、どのように評価したらよいか。
- 今回直接評価していただく政策評価の基となる施策評価及び事務事業評価の項目についてのご意見は、意見書の総論もしくは各施策の意見欄に記載できる。なお、現在の評価システムは、政策評価で施策以下の評価で出てきた課題等が見えにくいため、来年度抜本的に改定する予定である。
- 今回の委員評価として、中期基本計画等の計画の文言について意見したり、各年の予算分配について意見したりする場ではないという認識で良いか。
- そのとおりである。直接評価をしていただく政策評価及びそこに紐づけられた各施策評価等について、参考資料4で示した前回と同様の意見書形式で取りまとめたいと考えている。
- ◎ 外部評価は町民の目線で評価する必要がある、今回お集まりの委員は見識内外を問わず、町民の代表として町の取り組みや評価の仕方そのものに対しても意見を出していただくものと考えている。
- 参考資料3に示されている町民満足度調査について、回答する年齢によって各取り組みの評価が違ふと考えるが、どこまで年齢による回答分布を把握しているか。
- アンケートは、年代ごとに200枚ずつ発送し、各年代の有効回答数も把握しているが、一部設問を除いて、総集計による結果算出をしている。
- 前回の意見書等を見ると、あまりにネガティブな表現が多く、職員のモチベーションの観点からも問題だと思うので、良かった取り組みについても記載すべきである。また、現在の評価システムは評価の因果関係が見えにくいため、評価指標を設け、指数化するなど、その評価の背景がわかるものにするとともに、課題だけでなく評価できる点も出せる評価とするべきである。
- ご指摘の通りで、現在の評価システムは指標に対する達成度によって評価をつけているものではないため、評価者の主観による評価となっている。また、課題改善型の評価方法のため、評価設問についても課題を記載する評価シートになってしまっている。これらについて、来年度の評価システムの見

直し時に、併せて改善していきたい。

- ◎ 本委員会で評価方法についても意見を出してよいものなのか。また、その意見については、意見書に反映できるのか。
- 実施要領に定める評価対象ではないものの、ご意見を頂けると考えている。また、意見書にも柔軟な形で記載できると考えている。
- 今回の議事の流れとして、評価システムについて議論してから政策の評価をするのか、それとも評価をしてから評価システムについて議論するのか。
- 政策評価前に評価方法についてのご意見をいただいているが、今回の評価については、現在の評価システムで実施する。評価方法に対するご意見は、今後の評価システム改編時に取り入れていきたいと考えている。
- ◎ では、評価方法については、議題1で集中的に意見を出していただき、議題2では、各政策の評価に特化して議論をしていきたい。
- ◎ 評価システムについて、委員意見でも出ていとおおり、現在の記載方法では、課題として記載されていることが良いことなのか、悪いことなのか分からないため、説明をする記載を増やす必要があると考える。ただし、数値化については、その数値の根拠が果たして政策や施策の判断根拠として妥当なのかという議論にもなるため、必ずしも数値化が良いとは言い切れないところが、他の市町の評価事例でも見受けられる。そのため、数値化にこだわらず、町民への説明に誠意をもって取り組むことが一番大事な所だと考える。
- 実際に資料を見て、事業と評価項目が多すぎると考える。もっと評価する事業数を絞って実施するなどが考えられるが、事務局はどのような評価方法の見直しを考えているか。
- 総合計画の進捗を政策・施策レベルで管理する政策評価と、事業の成果や必要性を見ていく事業評価という評価の目的を分けた二つに分類し、かつ事業評価の公表方法も工夫して、手に取りやすく、見やすい形に変えていってはどうかと考えている。
- ◎ 評価の項目数も多いため、評価資料作成に充てる時間や紙も多くなり、本来の業務に影響する可能性もある。負担軽減のためにも、その年度に重点的に何をやったのかが分かり、評価できればいいのではないか。
- 政策評価は、各期における重点的方針に紐づけられた施策・事業に絞って評価し、重点的方針の進捗と成果を評価するものと考えている。その政策評価に定量的な指標等を入れることで、明確な形のない「町の将来像」の達成度を定性的に言葉で説明する形がとれるとも考えている。なお、事業評価は、町が実施している事業について、なんらかの形で実施し、効果的なPDCAができる形にしていきたいと考えている。
- ◎ 評価の形については、今事務局から説明があった通りに実施するのが良いのではないかと考える。スリム化しつつ、重点項目が分かる形という意味で、町が考えていとおおりだと思う。
- 私も今回の評価にあたり、多くの細かい資料をもらったが、予算が大きい

など主要なものに絞った資料で良かったのではないかと思う。

- 評価方法を考えるにあたり、評価を縦に見られるものにしてもらいたい。具体的には重点的方針から見て、子育ての事業につながるとか、逆に子育ての事業から見て、重点的方針につながるなど、分かりやすいものにすること。
- 働き方改革の観点から、重点施策を決めて、重点的に人員配置をするなど、強弱をつけた事業運営をしていったほうが良い。また、似たような事業は統合をするなど、事業の精査をした方が、職員と町民にとって良いと思う。
- ◎ 資料6で政策「環境と風景が息づくまちづくり」の名称からイメージしにくい施策が入っているという印象がある。まちづくりの方向性の名称のミスマッチなのかもしれない。また、町の将来像の実現のために、まちづくりの方向性から3つの理念へとつながる体系の中に違和感がある。
- 3つの理念は、まちづくりの方向性を進めるにあたって行政だけでなく、町民など3つの力を使っていくというもので、矢印があるから三角形の中に入っているという違和感に繋がっているのだと考えるが、基本構想の中のものなので、現時点では修正することができない。
- ◎ 他に意見がなければ議題1については、終了とし、評価方法などについて、意見を踏まえ、見直しを進めていてもらいたい。

## (2) 政策評価に対する意見等について

### 政策「生活の質の向上と定住人口の確保」

- ◎ 全体にかかることだが、町民満足度調査の結果は、政策の評価の基礎資料とすることは、難しいのではないかと考えるが、事務局はどう考えるか。
- ほぼすべての満足度が下がり、重要度が上がっている調査結果になっているが、アンケートの在り方など検討する必要があると考えており、現在のアンケート結果を評価の基礎資料とすることは難しいと考える。
- 介護保険の分野は、予算の執行率も悪く、町民満足度も低い。例えばこのような事案に対して、どう考えていったら良いか。
- 国の方でもアンケート調査をしているが、価値観の多様化など様々な理由で年々満足度が下がっている。これは福祉の分野で特に言えることだが、行政側が担える範囲を規定せずに実施しているため、「適正」の議論ができないという問題もあると考える。もっと現場レベルで行政が担うべき範囲を議論し、定めてからでない行政の取り組みの適正な満足度は計れないのではないか。
- 町民の求めるレベルが上がり続け、満足度調査結果が低く出る中、これを行政評価に反映すべきか疑問である。内部評価も調査結果に引っ張られている感じもあり、良い取り組みも表に出てこない中、担当職員のモチベーションにも悪い影響があると考え、今後のアンケート調査の在り方について検討すべきである。

- このような町のアンケートは、対象者も限られている中、取り組みに課題を持っている方が回答しやすい内容になっていると思うため、あまり影響されずに評価をするべきだと考える。
- 評価について、例えば特色ある学校教育の分野など、地域と連携して取り組むという姿勢がよりはっきりしたと考える。先ほどの3つの理念の地域の力と町民の力をうまく活用した行政運営は評価できる。町民側もようやく行政の言う協働に反応してきた感じがある。今後もこの方向で進めていってもらいたい。しかし、同時に興味関心は人や地域によって違うため、さまざまな情報を多様な媒体を使って発信していく努力は続ける必要がある。
- ◎ 私もアンケート結果は参考としつつも、あまり評価に直結させずに政策評価をした。他の委員の話にもあるとおり、良い取り組みも埋没してしまう評価は問題でもあるため、アンケートの取り方を含めて評価の仕方を再考するべきだと考える。なお、委員会の評価にあたっては、課題だけでなく評価すべき点もしっかり出しながら進めていきたいと考えている。
- 評価を出すにあたり、各取り組みの具体的な成果もわからない中、個人的な感覚だけで、AとかBとか評価を出していくので良いのか。
- 今回の評価は、各部門そして町民代表として選ばれているため、町民満足度調査のようなデータよりも、委員一人ひとりの感じていることを出していく方が適切な評価となるのではないかと考える。
- ◎ その通りだと考える。町民による評価が大切なため、各委員の感じていること、聞いていることを評価としてご発言いただきたい。
- 他の評価では評価指標を設けて判断するというものもあるが、今回の行政評価はそういったものがないため、感覚的な評価となっても問題ないと考えている。また、アンケートは結果として出てきているため、行政としては結果をもとに振り返る必要があるが、委員の評価は別であるため、結果に基づいた評価をする必要はない。なお、今回のアンケートは平成27年の回答者と平成30年の回答者で違うため、そこも考慮しつつ結果を見る必要があると考える。
- 二宮ライフの取り組み状況はどうか
- 二宮ライフは定住確保を目的とした様々な取り組みをしているが、一つの成果として社会異動数は年々改善され、今年度プラスとなる予定である。ただし、自然増減は変えられないため、人口減少ということには変わらない。また、この施策には子育て環境も含まれているため、全体としてはまだまだやれることはあるのではないかと考えている。
- 二宮ライフの予算で団扇を作って、夏祭りの時に配布するという取り組みがあったが、PRの方法としてどうかと考える。
- 二宮ライフの情報発信は、町民の有志がSNSなどを使って町内外に発信したりしているが、SNSなどの情報を得られない世代へのPRとして、実施したのだと考える。ただし、重要なのは取り組みについて振り返り、効果などを検証することだと思うし、情報発信について行政が主導して幅広くや

っていくべきだと思う。

- ◎ 評価にあたり今の事例を見ると、今まで町のみが情報発信の主体であったものを、地域や町民の力を借りて幅広く実施しているということと、SNSでの情報発信は町が統制できない部分ではあるものの、それが結果的に良い結果につながっているということになると思う。
- 予算実績からみると観光協会の補助金とシティプロモーションの予算の割合を比較すると、町の力の入れ方としてどうなのかと考える。また、商工会で他の市町と連携していることがあるので、シティプロモーションの分野とどのように連携していけるかについても検討するべきだと思う。
- 確かにシティプロモーションの分野と観光の分野は関連するものだが、政策の分野では分かれてしまっているため、各評価に連携の必要性をうまく記載するべきだと考える。
- 一つ目の政策は、それぞれの施策が非常に関係していると考え。町民一人一人が元気に過ごすという健康づくり分野もしいてはシティプロモーションにつながり、子育て環境の充実も安心した暮らし、明るいまちづくりに直結している。一番大切なことは地域と町民、町が密接に連携することだと考えるので、後期基本計画においても密接な連携を継続して続けていくこと。一方、子育ての分野で「切れ目のない」とあるが、現在の状況では、福祉、子育て、教育の分野で分かれてしまっていると感じる。例えば子ども課のような部署の創設により、情報の共有やニーズにあった支援ができるのではないかと考える。また、各対象のニーズを的確に聞き取ったうえで、取り組みを実施できたのか疑問である。本当の不安や不満を解消するには、ニーズに即した対応が必要なため、出向いて声を聞き取る積極性が必要である。
- ◎ ではこの政策の評価をBとしてはどうかと考える。評価できる部分はあるものの、対話の部分の取り組みなど、まだやれる部分が残っていると思うが、いかがか。
- 異議なし
- 特に地域の醸成支援の部分に町は力を入れていると思う。防災の取り組みのほか、通いの場の取り組みや待機児童対策、コミュニティスクール化など評価できる点が複数ある。Bではあるけど、前向きに推進してもらいたい。

#### 政策「環境と風景が息づくまちづくり」

- 再生可能エネルギーの分野において、太陽光の事だと思うが、売電事業が難しくなっている中、今後もこのようなことをやっていくのか。
- 28年度の29年度で施策の評価内容が異なっている。28年度は当初計画していた計画の策定を断念したため、Dと評価した。29年度はその代わりに民間の再生可能エネルギーの導入支援策の導入について、研究できたためAとしている。

- この政策の分野は漠然としていて特色が出ないため、非常に評価がしにくいものであった。施策2-1の分野において、支援＝補助金になっていないか。単団体の個別の補助ではなく、各団体の交流が図れる事業を展開し、相互理解を進め、高め合う関係づくりを進めること。健康づくりや生きがいづくりにおいても、スポーツ活動が効果的だと考えるが、特定の団体にすべて任せてしまうのではなく、高齢化による影響も勘案しながら、継続性や発展性が望めるものとして町が力を入れていってもらいたい。青少年の分野におけるスポーツも同様で、共働き世帯等の増加により参加できない家庭も多くあるなか、地域の人材をうまく活用し、指導者育成・指導力向上を進め、まちづくりや定住促進につなげていってもらいたい。施策2-3の分野の取り組みは成果があったのかが見えてこない。職場環境の働き方改革の促進については、行政や学校現場が率先して改善することで、その動きを広げていってもらいたい。農林水産、特産の分野は、町の魅力である環境や風景の維持管理にも重要な施策であるため、後継者不足による産業の衰退等も考慮しつつ、町は支援に力を入れていく必要があると考える。いずれにせよ、各施策の効率的、効果的な取り組みのためには、情報交換や相互協力が必要であるため、そのような場を設けるなど、横断的に対応していく仕組み作りが必要である。
- 産業振興の分野において、オリーブはお茶だけでなくお菓子などへの活用を広めているほか、湘南オリーブとしての商標認定を目指している。町の産業振興課の取り組みと観光協会、商工会の取り組みをうまく連動させることで、より効果の高いものとし、魅力的なまちづくりになると考える。
- ◎ 政策の名称と施策がミスマッチな感じがする。いろいろなものが入りすぎているので、魅力と活力あるまちづくりみたいな名称の方が内容を網羅できると考える。今、変えられる部分ではないと思うため、今後誤解のないような名称に留意してもらいたい。
- ◎ 委員のご発言などから、取り組みはやってはいるけど相互協力など、足りない部分もあるため、Bではどうかと考える。
- 中身の整理や取り組みの不透明感からCとした。再生可能エネルギーの取り組みは重要ではあると考えるが、この町の規模で、どこまで重要かは疑問である。それぞれの施策が頑張っているのはわかるが、必要性の精査や施策の整理をすべきであることからCと評価した。
- 4つの政策のなかに農水商工が入らないため、ここに入ってしまった。
- ◎ このあたりの整理も含めてCとすることは可能か。
- 「環境と風景が息づくまちづくり」という名称は基本構想で定まっているため変えられない。しかし、その中にある重点的方針の中身は後期基本計画の中で大きく変えていく予定である。
- ◎ では、Cとする。特に再生可能エネルギーの分野においては、特に疑問があった点なので、ピックアップして記載したい。

- 特に起業支援や農業の分野は弱いと考えるため、更に力を入れる必要があると考える。
- 全体的にみるとCという評価は妥当だと考えるが、個別で評価できる取り組みもあるため、表記に際しては「すべてに対してCというわけではない」という文言を入れてもらいたい。実際に頑張っている職員のモチベーションにも関わる。
- 頑張っている取り組みが、施策の成果や政策の達成に直結するものではないという意味合いも入れてもらいたい。決して努力が足りないというものではない。
- 2-5の再生可能エネルギーについては根本的に考え直す必要があるというもの。2-3、2-4についてはやるべきものはあるにしても、町にマッチしていない。2-1と2-2は改善というよりは推進していつてもらいたいという意味でのCという理解で良いか。
- ◎ そのような意味でまとめていつてもらいたい。

#### 政策「交通環境と防災対策の向上」

- コンパクトな町の特徴があり、秦野二宮線を軸として移動が容易であったり、西湘バイパスや小田原厚木道路などといった他地域とのアクセスが良かったりするのには利点だが、車利用者とそうでない人との格差が生じている。今後公共施設の再編や庁舎移転を念頭に置きながら交通網の整備を進める必要がある。また、東日本大震災から8年が経過し、防災意識が薄れる中、自然災害のリスクは二宮でも高まっているため、危険個所の整備や子どもの安全対策が必要。そのためには子どもから大人まで参加する防災訓練や、自治会や学校が連携した備えが必要。また、中学生による犯罪や通学路上での犯罪などがあるため、いざという時に備えた防犯の観点からも、地域と町民、行政が子どもたちの安全を協働で支えるまちづくりを進める必要がある。なお、限られた予算の中、ポイントを絞って取り組む努力も必要である。
- ◎ 住んでいる方の意識も重要である。
- 町の有効な土地利用は、駅前町民会館の跡地利用などを見ると推進できていないと感じる。Aの根拠が知りたい。
- 町では平成29年度に懸案となっている老朽化した公共施設の統合・改修や未利用町有地の有効活用の今後の方向性をまとめた公共施設再配置・有効活用実施を策定し、基盤が整ったことなどからAとした。なお、廃止した駅前町民会館の活用については、そのものの面積だけでは幅の広い有効な活用に限界があるため、庁舎の移転や学校再配置の進捗と合わせて、一体的に整備するため、現在は暫定整備として駐車場としている。
- 説明は理解したが、駅前が駐車場としてぽっかり空いてしまっているのは印象が悪い。また、今の説明を町民がどこまで理解しているかは疑問で、広報活動等の力が弱いと思う。その他の未利用町有地の活用についても、強力

なトップダウンで決めていかないと動かないと考えるが、それが遅すぎると  
思う。

- 各細かい事業は都度見直しが必要だが、再配置のような長いスパンの計画  
については、計画が終わってから評価をしないと前に進まないと思う。ただ  
し、常に町民の声に耳を傾けつつ、事業を推進していく姿勢は必要である。
- ◎ その通りだと思う。性急に建物を建てるより、一体的に整備する方が効率  
的である場面もあるため、町民の意見をよく聞きながら整備計画は進めてい  
く必要がある。そのような観点からもBということでしょうか。
- 異議なし。

#### 政策「戦略的行政運営」

- 若い優秀な方が増えてきている気がする。議会の対応なども良くなってき  
ているため、評価できると考える。
- 戦略的行政運営という名前の下に職員能力が位置づけられるなど、違和感  
もある。具体的にこの政策ではどのようなことをしているのか。
- 具体的には広域連携の推進という施策がある。今後の人口減少等を見据え  
ながら、広域で扱うことによる事務の効率化などを目指すもので、現在はご  
みの広域処理や消防の共同受信といった具体的な事務のほか、要望活動など  
も行っています。
- 大切な取り組みのため、今後も推進していくとともに、町民に中身が見え  
るようにしていくこと。
- 戦略的とはどういうことか、よくわからない。職員のスキルアップについ  
ては、対人も含まれているためとても重要だと考える。内容は研修が多いよ  
うだが、出向など外に出て学ぶことも含めるべきであるほか、事業の見直し  
や作業の効率化について、全課を上げて取り組むべきである。各種計画の策  
定に際しても、コンサルに丸投げではなく、職員が町民とひざを交えて話し  
合うことで、職員の自覚を高め、自らスキルアップする姿勢を育てる必要が  
ある。人材育成基本方針は大変すばらしい内容だが、定期的に振り返り、実  
際にどこまでできているかを見直す必要がある。今後、スリム化は必要不可  
欠なことだと考えるため、分野別方針にある施策と事業をつなげて整理する  
とともに、シンプルな目標を設定するべきである。また、町民にわかりやす  
く、次の施策に生かせるスピーディーな評価ができるようにするべきである。
- ◎ 働き方改革は職員にも関係するもので、事業の見直しや作業の効率化を含  
め職員の働き方改革を進めることで、より生き生きと仕事ができる環境にな  
ることは、町民にとっても良いことなので、その視点を含めて推進してい  
くべきである。
- ◎ 他の評価委員会で、新庁舎の議論がなされた際、今後のまちづくりを進め  
るうえで、今までの窓口対応だけではなく、理解を促進する対応を強化する

べきとの議論になった。この分野の評価においても、その視点は必要なことと考えるため、その視点を入れ込みながらということで、Bという評価でどうか。

- 異議なし
- ◎ では、事務局で本日の意見をまとめ、第2回用の資料作成をお願いします。

### (3) その他

- ・ 議事録の確認について。
- ・ 本日の提出資料の確認について。
- ・ 第2回は平成31年2月15日（金）に開催する。なお、資料は可能な限り会議前日の昼までにメールで送付する。その際、議事録は未定稿の状態のものとなる。

## 5. 閉 会